波田地区文化財マップ

～波田の歴史を見る～

波田地区は松本市の西部に位置し、総面積は59.42㎢、西に最高峰標高2,447mの鉢盛山があり、その北東側に標高900mから600m台の傾斜地が広がり、居住地や耕作地となっています。山間地域がほぼ80%を占め、自然が作り出した扇状地と河岸段丘で形成されています。北側には梓川が流れ、西側には黒川渓谷があり、下流域に豊かな水資源を供給しています。

人家は900m以下の地域にあり、中心部鍋割は679mで、その近辺に松本市役所波田支所、小・中学校、波田駅、松本市立病院、文化センター、体育館などの公共施設が集中し、平成28年11月現在の世帯数5,990戸、人口15,702人で、地区を国道158号と松本電鉄上高地線が東西に縦貫し、主要地方道塩尻鍋割穂高線が南北に横断しています。

波田の歴史

【縄文時代】

6～3千年前の縄文中期遺跡は河岸段丘波田面の麻神遺跡と森口面の葦原遺跡に代表され、土器など多数発掘されています。しかし、波田地区では弥生・古墳時代の遺跡群は見つかっていません。

【奈良時代】

奈良時代末(8世紀後半)作の県宝『銅造菩薩半跏思惟像』は、中信地域には数少ない小金銅仏です。平安遷都(794)ごろ藤原一族と親戚の京都太秦の秦氏の集団が、波多・安曇・山形村に設けられた朝廷の御牧、大野牧へ牧司で移動した際に、秦氏の氏寺広隆寺本尊を雛形に鋳造した像を、念持仏として持ち込み参拝したと考えられています。『仁和寺文書』(867)に「在筑摩郡大野荘百弐町弐段歩を右大臣藤原良相が勅旨の貞観寺へ寄進」とあり、大野荘の庄司は秦氏とみられます。

【平安時代】

『尊卑分脈』系図に、清和源氏村上為国の弟源盛国は「畠判官代と号す」とあり、大野荘は庄司秦氏の所領となり「畠郷」に変わりました。波多神社宮司は、平安末(12世紀)鳥羽院政期に上波多青木原へ紀州より熊野権現勧請と記録しています。源盛国は、畠判官代と名乗って、上波多青木原に館を建て、敷地内に熊野神社を勧請したと伝わります。

【中　　世】

源頼朝の鎌倉時代に、村上党は幕府御家人になりました。波多判官代源盛国は本領波多郷と併せて、内田埴原牧の地頭に補任され、私牧の莫大な財力で上波多に別当寺里の院栗田再興寺を創建しました。館から水沢山中18丁の谷間へ、坂上田村麿が開いた京都音羽山清水寺にならい、不動院・観音堂を造営し、牧場の祈願所として奥ノ院慈眼山若澤寺を創建しました。源重久、豊重、信盛ら源氏が大旦那となりました。

室町期の寛正3年(1462)畑(はた)郷の再興寺内城へ守護小笠原氏の四天王櫛木一俊が入り、嫡子紀伊守政盛の二代で、飛騨街道沿いに町割りをし、武士・商工業者・農民を住まわせ城下町が形成され、光明山頂に山城が築かれました。

【戦国時代】

三(佐)溝村の名は長享2年(1488)の古書にあり、淵東嶋の開発は百瀬助右衛門の先代が室町初期に着手、大永3年(1523)に堀ノ内より移転しています。

小笠原長時が武田信玄に敗れ荒廃した若澤寺に、天正5年(1577)勝頼から寺領を寄進されました。その後石川、小笠原など歴代藩主から安堵状を受け、徳川家光から八代の将軍より10石の御朱印を給わり再興し、善光寺道名所図会などで知られ信濃日光と呼ばれました。

【近　　世】

寛永年間に上波多村、下波多村、三溝村の三か村は嶋立組に属しました。下波多村には江戸時代末期から開発された波多堰(明治15年)と黒川堰(明治26年)が完成しました。

【近・現代】

明治7年(1874)上波多村、下波多村、三溝村の三か村が合併して波多村が成立し、役場が鍋割に置かれました。松本藩の御領林約200haは、官林(国有林)となりました。官林がその後波多村に払い下げられて、現在の中心市街地となりました。現在約450本のアカマツ林が波田小学校敷地内に残り、松本市の天然記念物に指定されています。

昭和8年(1933)波多村を波田村と改め、昭和48年(1973)波田町となり、平成22年(2010)松本市に合併しました。

発行　平成29年3月　波田地区文化財調査委員会(事務局：松本市波田公民館 ☎0263-92-2268)

神社・仏閣・祠

8 安養寺（浄土真宗）

戦国時代三溝村中上手に創始、宝暦７年（1757）以降水害の被害がない現在地に移築されました。境内には数多くのシダレザクラがあり、４月の開花期には寺全体を桃色に染めます。さらに三本スギ、コウヤマキの巨木（共に松本市特別天然記念物）があります。鐘楼門は元禄期（1688 ～ 1703）の建物です。

14 三神社

祭神は八幡神・諏訪神・春日神の三柱を祀っています。神殿の拝殿は楼門造りで屋根は千鳥破風と向拝は唐破風を組み合わせた造作です。天保 2 年（1831）名工立川和四郎富昌の門弟で梓川上野の大工棟梁輪湖和藤治が神楽殿と一緒に造立したと伝えられています。

35 水神社

明治15年に完成した波田堰の安全と開田の豊穣を願い建てられた水の神を祀る神社です。堰の建設には、下波多村庄屋の波多腰六左親子の苦闘と多額の私財が投入されました。春には芝居や奉納相撲が行われ、地元力士による相撲は昭和30年代まで続いていました。

48 諏訪神社

平安時代に現在地より約１km上流の神ノ洞の龍胆清水に上諏訪から勧請、後に現在地に移されたと云われています。本殿は一間社流れ造りで寛政３年（1791）宮大工柴宮長左衛門の造作とされています。敷地面積は 730 坪、スギ、ヒノキ、モミ、ケヤキなどに囲まれた社叢には、立木が 160 本以上育成、スギ並木の巨樹は江戸初期から 370 年以上経つ歴史ある森です。

56 盛泉寺（曹洞宗）

天文 21 年（1552）神林地頭常和泉守の菩提寺として柏鷹正庭が開基。地蔵菩薩が多くあり、庶民の間に地蔵菩薩信仰が広まったことが伺えます。境内には、水沢観音堂が移築されており、参道脇には線彫六地蔵尊・線彫一石六地蔵尊（共に松本市重要文化財）なども拝むことができます。

57 水澤観音堂

廃仏毀釈で廃寺となった若澤寺観音堂を明治 25 年 16 世古田梵仙住職が移築。銅造菩薩半跏思惟像、銅造伝薬師如来坐像御正体残闕（共に長野県宝）、銅造菩薩立像、真言祖師像、金亀多宝塔・水澤不動明王立像（共に松本市重要文化財）など多くを保管しています。

72 波多神社

波田地区で最も古い神社で、平安時代末青木ケ原神社から始まり、その後熊野権現が勧請され、室町時代に櫛木政盛が熊野権現四柱を勧請し、この地に社殿を築造したと云われています。社叢にコナラ（松本市特別天然記念物）、スギ、ケヤキ、ヒノキの巨木が多くあります。

74 仁王門・金剛力士像

江戸時代中期の元禄末に廃寺になった古刹西光寺の仁王門がこの地に移築されました。安置されている仁王尊は、鎌倉末期の元亨２年（1322）大旦那源重久・仏師善光寺妙海により造立されました。毎年４月に子どもたちの健やかな成長を願い、「仁王尊股くぐり祭り」が右側の阿形尊で行われています。

75 田村堂（国指定重要文化財）

田村将軍を祀ったお堂で、若澤寺境内の最上段に祀られていました。室町後期の作と推定され、建造当初は金箔が貼られた燦然と輝く豪華な厨子でありました。明治初年の廃仏毀釈によりこの地に移設されました。

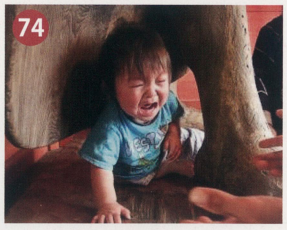
97 上海渡稲荷神社

上海渡からは、平安時代の須恵器、土師器、灰釉陶器が表面採取されており、古代から村落がありました。水沢川の流末付近の正一位伏見稲荷神社は、平安初期に京都から大野牧に入った牧官秦氏が勧請したことが発端と云われています。現在区民が初午の日にお祭りをしています。

安養寺

諏訪神社の山車

盛泉寺



仁王尊股くぐり

名勝・自然・景観

1 火打岩

火打岩は、松本市との合併以前は波田村、新村、梓村、倭村の境となっていました。赤道付近に生息した放散虫などが堆積した２億年以上経たチャート（火打石）です。太平洋プレートが移動し、北アルプスや松本盆地の基盤になっているものが露出していると考えられています。

28 波田小学校のアカマツ林（松本市特別天然記念物）

波田小学校の敷地内には、樹齢 200 年を超す大木など約 450 本のアカマツがあります。江戸時代は伐採禁止の御停止林で松本藩の御領林でした。明治時代に官林（国有林）となり、現在アカマツは風致林として残され保護されています。

67 上波田の街並み

室町時代小笠原氏の四天王櫛木氏が、西興寺・境内に波多山城の内城（櫛木城）を構築し、上波田に城下町が形成されました。江戸時代は若澤寺の門前町として栄えました。この街並みを保存するため「街並み環境整備事業」が平成 15 年から平成 23 年度まで実施されました。

68 合掌坂

河岸段丘にある古道で、赤松、上海渡（西側）から上波田への坂道の途中に、淵東嶋の渡しからの坂道（東側）が合掌するように合流しており、この形から合掌坂と名付けられました。今は石の道標と道形が残るのみの忘れ去られた坂道となっています。

73 波多神社のコナラ（松本市特別天然記念物）

波多神社の歴史から樹齢約 900 年になると推測されるコナラの巨木で、スギやケヤキの巨木が林立する社叢の中で、一際目を引く存在感のある巨木です。

100 三ツ岩（松本市特別天然記念物）

上海渡の北方、和田堰のほとりにあります。赤道付近に生息した放散虫などが堆積した２億年以上経たチャート（火打石）です。太平洋プレートが移動し、北アルプスや松本盆地の基盤になっているものが露出していると考えられています。

102 梓川河原のケショウヤナギ

ケショウヤナギは北海道と、本州では上高地とその周辺のみに植生する貴重な植物です。幼木の枝や幹が白粉で覆われ、小枝は紅色をおびることからケショウヤナギと名付けられました。波田地区の梓川河原のところどころに見られます。

108 野麦街道夏道

野麦街道は、明治時代以前には、増水した梓川を渡る橋がないため、橋場から鍵懸峠を越えて赤松へ出るのが主要な道で、夏道と呼ばれています。鍵懸峠から下る道は当時の姿がそのまま残っています。冬の渇水期には梓川に仮橋を架け安全な左岸を通行し、冬道と呼びました。

遺跡・史跡・行事

② 下三溝 真光寺跡

戦国時代の弘治元年（1555）壱ツ立石の波多庄司輿山城守と新村の武将古幡伊賀守が中興。江戸期は安楽寺末寺で、廃仏毀釈により廃寺となり、今はお堂と石造物のみが残っています。

⑲ 藤ノ宮跡

中世、火打岩近辺の藤ノ宮に太田氏一族が住んでいました。梓川の洪水を蒙り、下島地区へ移った後に「藤ノ宮」（村社諏訪神社）が残りましたが大正年間三神社へ合社され、今は太田氏一軒の墓地が昔のおもかげを伝えています。

㉒ 葦原遺跡群

河岸段丘のローム層森口面の垂岸沿線上は、今より6千年から3千年前の縄文中期の竪穴住居址が続いています。発掘により、スプーン型土器や、ひとみのある土偶が出土しています。

㉕ 十三経塚

江戸時代の初め、松本藩主小笠原秀政の家老春日淡路守が波田に住んで居ました。寵愛していた姫と12人の腰元が禁制のキリシタン信仰を捨てずに処刑され十三の塚に葬られました。以来十三経塚と云われるようになりました。

㊵ 麻神遺跡

唐沢川の扇状地下部に位置する縄文時代中期の大規模な遺跡。ここから出土した土面は、現在東京国立博物館に展示されています。縄文時代の顔立ちを伝え、土面研究には必ず登場する貴重な土面です。

㊶ 下波多 学校跡

明治6年盛泉寺に開校した明智学校が生徒数増加に伴い上波多と下波多に分離しました。下波多は、廃寺となった法久寺建物を移築し明治8年郷倉跡地に開校しました。明治11年に下波多学校と改称し、明治20年上波多村、下波多村、三溝村の三か村統合の新校舎ができるまでありました。

㊷ 法久寺跡

慈眼山若澤寺（真言宗）の末寺の一つで、江戸時代東西3間半、南北3間の観音堂があり、近隣檀家の葬儀や法事などを取り仕切っていました。廃仏毀釈により、住職が還俗帰農し廃寺となりました。法久寺の田畑は払い下げられ、建物の一部は下波多学校に移築されました。

㊿ 淡路城跡

淡路城は、小笠原氏の家老春日淡路守道次の城で、江戸前期慶長19年（1614）ころ飛騨高山と木曽方面の固めとして築城されました。城の規模は東西1丁37間、南北53間、城の周囲を高さ1mほどの土塁で固めてありました。現在でも一部掘割の跡が見られます。（十三経塚参考）

52 上波田の御柱行事
（松本市重要無形民俗文化財）

上波田に伝わる子ども（小学生）たちが行う正月の行事で、五穀豊穣、厄除祈願をこめ、五色紙の御幣や柳に毬、巾着を付けて柱に飾り、歳徳神を祀るものです。上丁、中丁、下丁の3か所に1週間ほど飾り建てられます。

71 西光寺跡

平安時代に無量山再興寺が建立され、室町時代に櫛木氏が一角に櫛木城を築造し、上波田は城下町となりました。この時期に寺は儀応山西光寺に改号されたと云われています。繁栄した古刹も江戸中期の元禄末に廃寺になり、阿弥陀堂、仁王門は現在地に移築されました。

89 波多山城跡（松本市特別史跡）

室町時代小笠原氏が、台頭する北の仁科、西牧、西の飛騨、木曽の勢力に備えた山城です。この城は本郭南北 20 間、東西 6 間、他に北郭、南郭があり何本かの竪堀があります。山城に秋葉神社が祀られていたことで、別名を秋葉城址と云われています。

90 若澤寺跡（松本市特別史跡）

慈眼山若澤寺といい、真言宗の名刹でありました。元寺場よりこの地に移ったと云われています。江戸時代に七堂伽藍が整備され、信濃日光と呼ばれ多くの人々が訪れました。明治初年の廃仏毀釈で廃寺となり貴重な建造物、仏像などは四散し、現在は石垣・礎石や壊れかけた雄鳥羽の滝が残っています。

93 元寺場跡（松本市特別史跡）

白山山頂よりやや下方の標高 1,250m付近にあり、平安から室町時代の山岳寺院跡と云われ、広さは 3 ha、幾段かの人工の平場が残っています。西側には 18m四方、高さ 30 ㎝の基壇があり、1.8m間隔で礎石が配置され、建造物があったことを示しています。若澤寺の前身と云われています。

建造物文化財

7 三溝の由来

和田堰・神林堰・新村堰の三堰が通っていることから、村名となりました。

20 梓川の霞堤防（信玄堤）

梓川の出水期には、激流が堤防を押流し農作物や人家に大きな災害をもたらしました。戦国時代に甲斐の名将武田信玄は、霞堤防を造って、本堤防の損壊防止と洪水を本流に戻す構造の堤防にしました。

30 旧波田役場庁舎

松本市役所波田支所の敷地内に立つ旧波田村役場庁舎は大正 14 年（1925）に建てられた木造洋館の二階建て、玄関にバルコニー、屋根に尖塔が設けられ、木枠のガラス窓は上下開閉式のレトロなデザインの大正モダン建築です。

43 波多腰家住宅（松本市重要文化財）

ここの波多腰家は、屋号を丸八といい、享保 18 年（1733）から代々庄屋を勤め、現在地に寛延元年（1748）移転したと伝えられています。波田堰を開削した波多腰六左（1838 ～ 1900）の生家です。平成 12 年国登録文化財、平成 29 年松本市重要文化財になりました。

95 淵東の深井戸

淵東の百瀬氏一族は、江戸時代梓川近くに住んで居ましたが、度重なる水害を蒙り、現在地に移住しました。高台で飲料水に恵まれず、文久年間（1861 ～ 1864）三町会で、住民が深さ 21m の深井戸を掘りました。昭和 15 年ころまで使用されましたが、新たな水道の敷設とともに使われなくなり、昭和 40 年代に埋められました。

96 柏屋住宅

江戸時代の本棟造りの建物で、明治時代初期に他村より移築しました。森口から赤松に新しい野麦街道が開設されると宿屋を営み街道に花を添えました。

101 赤松頭首工跡

梓川両岸 1 町 13 か村の関係農家 6,300 戸余の幹線水路灌漑取水口として昭和 6 年完成し昭和 51 年まで使用されました。この頭首工は、本流からの砂礫の流入により取水困難となることが多く 3 ㎞上流に新たな頭首工が国営事業により完成しその使命を終えました。

石碑・石仏・石造物

26 39 54 82 99 徳本名号碑

26：上島
39：薬師堂石仏群
54：横町辻石仏群
82：阿弥陀堂周辺
99：上海渡石仏群

徳本上人は文化13年(1816)に信濃を巡錫し、松本に滞在した折に広く浄土宗の教えを伝えています。波田地区では上島・薬師堂前・横町・阿弥陀堂境内・上海渡の5か所にその念仏塔(南無阿弥陀仏)が建立されており、高さ2mを超える石碑もあります。

38 下波田 薬師堂石仏群

念仏名号碑、念仏供養塔、光明真言供養塔など2mを超える碑や地蔵尊、庚申塔、聖観音尊などが多く祀られています。薬師堂脇のびんずる尊は、何でも願いごとをかなえてくれる仏様として参拝者があり、毎年お祭りが執り行われています。

45 中波田 新田石仏群

馬頭観音が多く在りその他庚申塔、大日如来、念仏名号碑、不動明王などの石碑が50基ほどあります。特に貴重なものは庚申塔の線彫石碑で、青面金剛尊の像の左右に漢文20文字で因果応報の内容の碑文が刻まれています。

47 郡道坂開道記念碑

明治44年5月竣工。中波田(現ローソン前)より鍋割(国道158号)までの約1㎞区間の段丘部分を掘割して「郡道坂」と称し開道しました。以来地元関係者が毎年開道記念碑祭を行っています。この道を別名仁科西街道と呼び、現在では主要地方道塩尻鍋割穂高線となっています。

53 横町 辻石仏群

寛政10年(1798)～明治10年(1877)に建立の念仏供養碑、念仏名号碑、光明真言石碑、弥勒地蔵菩薩など8基が辻に祀られています。高さ2mを超す石碑が多い。一角に養蚕の繁栄を願う蚕玉様が祀られており、今も毎年3月に祭典が継承されています。

64 線彫六地蔵尊像 (松本市重要文化財)

寛永12年(1635)造。若澤寺廃寺により移築されました。地蔵菩薩は、釈迦が亡くなり弥勒仏が現れるまで、地獄道・餓鬼道・畜生道・修羅道・人間道・天上界の六道で現われ衆生を救う仏です。地蔵は菩薩形の中でただ一つ比丘(坊主頭)の姿で、袈裟を着け素朴な表情をしています。

81 線彫閻魔王座像 (松本市重要文化財)

若澤寺巡礼者が多くなった安土桃山時代に越前(福井県)の僧侶が、地獄行きを逃れるために善行を積もうと願い、造立したものとされています。線彫の閻魔王がユーモラスに描かれています。

83～88 若澤寺 参道丁石 (松本市重要文化財)

丁石は参道にある道標のことです。寛永12年(1635)に仁王門から若澤寺の参道に1丁(約109m)ごとに17の丁石が建てられました。現在、4基が参道にあり、5基は阿弥陀堂境内に移されています。丁石には阿弥陀三尊の梵字が刻まれています。裏参道には享保21年(1736)作の丁石1基があります。

91 長禄の参道供養碑 (松本市重要文化財)

参道の入口に在り、室町時代中期の長禄2年(1458)建立の銘があり、波田地区に現存する最も古い、高さ145㎝、幅96㎝の石碑です。石碑には天蓋の下に蓮華座があり、円光背をつけた阿弥陀三尊の梵字、両脇に施主平朝臣六翁沙弥盛高と銘刻されています。

92 若澤寺住職の墓石

元和の「隆賀」より「栄運」「栄豊」の歴代住職の墓石があります。中でも「栄豊」は天明5年(1785)から文政13年(1830)までの45年間住職に在任し、若澤寺中興の住職です。

98 上海渡石仏群

江戸時代の石碑で、徳本・徳住などの念仏名号碑5・廻国巡礼・庚申塔・大日如来・二十三夜尊・馬頭観音などがあります。

仏像・仏具・仏画

31 古瀬戸瓶子・四耳壺（松本市重要文化財）

元寺場跡から発見されました。鎌倉時代に瀬戸市周辺で作られたもので、元は酒などを入れて使用していたものを後に骨壺として元寺場に納められました。発見当時火葬人骨が入っていました。波田公民館保管。

32 木造菩薩立像（円空仏）

江戸前期の遊行造仏聖円空の作品。風化摩耗していますが「鬼子母神」とも見えます。松本地方での円空仏の発見は少なく、飛騨と関東を結ぶ円空の足跡を知る手がかりとなります。

58 銅造菩薩半跏思惟像（長野県宝）

総高22㎝銅造鍍金で造像蝋型を原型とした一鋳の菩薩像。奈良時代作。左足は踏み下げ、右足は半跏に屈しています。光背台座がなく、火災にあった様子でやや肌荒れがあり、鍍金はほとんど脱落しています。

59 銅造伝薬師如来坐像御正体残闕（長野県宝）

像高15㎝薬師如来像。鎌倉時代作。像容は、髪際がゆるい波型、衲衣を着け、左手に薬壺を掲げ、右手は屈臂して掌を前に向けた施無畏の印相、蓮華座に座禅をしています。鏡板を失っていますが懸仏です。懸仏は御正体とも呼ばれます。

78 西光寺絵図（松本市重要文化財）

平安時代から江戸中期に栄えた西光寺の伽藍配置を示す貴重な絵図。西光寺最盛期の正保2年（1645）に作成された原画を寛政8年(1796)に模写し、この絵図が原画と相違なきことを上波多・下波多村の組頭、庄屋が証人となり記名押印している希有なものです。

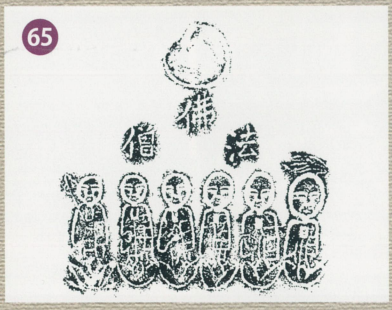
74

金剛力士像（長野県宝）

76

阿弥陀堂

65



線彫一石六地蔵尊像